

平成30年3月

各 位

## News Release

「公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団」

平成30年度

### 地域の伝統文化分野 助成対象先を決定

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団（1991年6月設立・理事長関口憲一）では、地域の伝統文化（民俗芸能および民俗技術）の継承、特に後継者の育成を支援するため、昨年11月から平成30年度『地域の伝統文化保存維持費用助成』制度の助成対象候補者を公募してまいりました。このたび応募142件の選考を終えて43件の助成対象者を決定し、助成金目録の贈呈を行うこととなりましたので、ここにお知らせいたします。

なお、本年度の決定を含めた本制度による助成件数の累計は、当財団設立以来1,180件になります。

#### 【お問い合わせ先】

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-9-1

明治安田生命新宿ビル2階

TEL. 03-3349-6194

FAX. 03-3345-6388

## 記

### 1. 公募方法と公募期間

都道府県の教育委員会または知事部局の担当課を推薦窓口とする要推薦制度の公募を、平成29年11月から平成30年1月31日まで行い、142件の申込を受付けた。

### 2. 助成対象

- (1) 地域の民俗芸能（民俗行事・民俗音楽を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。
- (2) 地域の民俗技術（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む）の継承、特に後継者育成のための助成。

### 3. 助成対象者の決定

選考委員会における選考審査（2月22日）を経た後、理事会の承認を得て決定。

#### 【伝統文化分野選考委員】（敬称略）

委員長	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	天野武	儀礼文化学会名誉会員
〃	田中宣一	成城大学名誉教授
〃	田村善次郎	武蔵野美術大学名誉教授
〃	西角井正大	国立劇場おきなわ運営財団理事
〃	星野紘	独立行政法人日本芸術文化振興会 プログラムディレクター
〃	渡辺行信	当財団評議員

### 4. 助成決定件数・助成金額

#### (1) 平成30年度 部門区分別 助成決定件数・金額

部門	申込件数	決定件数	助成金額
民俗芸能	136件	41件	1,775万円
民俗技術	6件	2件	75万円
合計	142件	43件	1,850万円

(注) 都道府県別の助成対象および金額等は、3頁～7頁（民俗芸能の部および民俗技術の部）をご参照願います。

## (2) 【ご参考】 助成件数・金額の推移 (金額単位：万円)

年度 (平成)	民俗芸能		民俗技術		合 計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
3年	24	1,717	5	229	29	1,946
4年	29	1,960	5	190	34	2,150
5年	30	1,958	5	200	35	2,158
6年	34	2,060	6	240	40	2,300
7年	38	2,310	5	190	43	2,500
8年	41	2,550	6	250	47	2,800
9年	41	2,670	6	230	47	2,900
10年	43	2,800	4	140	47	2,940
11年	44	2,845	4	155	48	3,000
12年	43	2,740	6	260	49	3,000
13年	42	2,740	8	260	50	3,000
14年	38	2,590	10	410	48	3,000
15年	33	1,590	2	60	35	1,650
16年	31	1,525	5	125	36	1,650
17年	37	1,650	0	0	37	1,650
18年	35	1,666	2	80	37	1,746
19年	37	1,780	2	70	39	1,850
20年	39	1,810	1	40	40	1,850
21年	38	1,740	4	110	42	1,850
22年	39	1,735	3	115	42	1,850
23年	41	1,814	1	36	42	1,850
24年	48	2,122	6	185	54	2,307
25年	40	1,775	2	75	42	1,850
26年	41	1,802	3	98	44	1,900
27年	40	1,746	4	104	44	1,850
28年	41	1,800	2	50	43	1,850
29年	42	1,811	1	39	43	1,850
30年	41	1,775	2	75	43	1,850
合計	1,070	57,081	110	4,016	1,180	61,097

## 5. 助成金目録の贈呈

助成対象者の所在する最寄の明治安田生命支社において贈呈式をおこなう予定。

# 平成30年度 地域の伝統文化 助成対象

(敬称略)

1. 民俗芸能の部 (民俗行事・民俗音楽を含む)

41件 1,775万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
北海道	スガワモチツキホヅンカイ 砂川もちつき保存会	30	M32年阿波からの出稼ぎ木場職人が、年末に故郷を偲び巡回もちつきを始めたことが由来。S44年保存会設立。一時活動休止するもS53年に復活。毎年12月第3土曜日に老人福祉施設他でもちをつきふるまう。
	街頭もちつき		臼購入費の一部として
北海道	エッチェウト・リゴ・モホヅンカイ 越中踊り子供保存会	7	100年以上前、富山からの入植者が故郷を懐かしみ、富山神社に集まって踊り伝えられ、伝承されてきたもの。H9年子供たちへの伝承を目的に、子供保存会を結成。富山県魚津市から指導者の招聘なども実施。
	越中踊り		衣装・道具購入費として
北海道	ルモイワトカグラホヅンカイ 留萌岩戸神楽保存会	30	下北半島に伝わる南部栗山神楽が、T10年代からの出稼ぎ労働者により伝承されたもの。毎年留萌神社祭への賛歌や市内老人ホームの訪問演奏、市内各種イベントに参加。
	留萌岩戸神楽		道具購入費の一部として
青森県	カシキマチアラウホヅンカイ 柏木町荒馬保存会	50	津軽藩主の領地見回りを表したとされる荒馬踊り。笛・太鼓・手平鉦の囃子に合わせ音頭取り・太刀振り・ささら・荒馬の順で行列が進む。S37年保存会結成。H10年から地元小4の総合学習に採用され、会員指導。
	荒馬踊り		荒馬10頭修繕費の一部として
青森県	ヤワサギキョウトゲイノホヅンカイ 八幡崎郷土芸能保存会	70	津軽地方に広く伝わる熊獅子を継承。踊りは牡獅子2・牝獅子1・可笑獅子1と笛・太鼓・鉄平鉦・謡い手で構成し、3演目有する。鶴舞の幕を使用しすり足で運ぶ荘厳さと跳躍による軽快さが特色。田楽踊との融合が独特。
	八幡崎獅子踊り		獅子頭購入費の一部として
岩手県	ゼンカクユウシマホヅンカイ 善楽流獅子舞保存会	30	神社付きの獅子舞による集落巡業の春祈祷。修験道が地域の生活に息づいていた当時の様子がわかる芸能。毎年3月の第1日曜日に春祈祷を実施。巡行は昭和の末に途絶えたが、H29年から再開。
	善楽流獅子舞		道具整備費の一部として
岩手県	オツチシロヤマトライ 大槌城山虎舞	30	江戸中期に船乗達が国姓爺合戦を題材に創始したとされる虎舞。地元2神社秋祭に航海安全を祈願し踊る。H8年若者有志で保存会結成。浜っ子気風に合う勇壮な踊り・囃子が特徴。虎舞の他甚句踊りも継承。
	大槌虎舞		太鼓張替費用の一部として
宮城県	ミヤカッタネジノヅマツカガラガミ 宮川田嶺神社附属神楽組	10	M30年頃に初奉納した神楽で、出雲流神楽の流れを汲む。現在は宮地区一帯から組員を募り保存・伝承。当神楽は全国的に見ても分布の狭い十二座神楽に分類され、声を出さない黙劇で、唄や台詞がないのが特徴。
	暁詣、秋祭り		道具購入費の一部として
秋田県	イタノハンガクホヅンカイ 板戸番楽保存会	20	慶長3年(1598)が起源とされる山伏神楽を継承。地区内の安泰を祈願し家々を回る八朔祭、奥宮神社夏祭奉納等で舞う。狂言や源平時代の物語を題材とした演目数は12幕で、県民俗芸能大会や各種イベントでも披露。
	板戸番楽		長胴太鼓購入費の一部として
山形県	チホウチクワンシヨウカイ 致芳地区文化振興会	30	前九年の役戦勝祝に因む黒獅子舞と文政10年(1827)創始の五十川獅子踊りを継承。後者は休止中、近々復活見込。黒獅子舞は15~20人の振り手が10m超の獅子幕に入り町内を巡行。獅子踊りは子供が4演目踊る。
	黒獅子舞・獅子踊りの御囃子		篠笛購入費の一部として
福島県	ハンダイチモテラク 磐梯町 本寺区	60	江戸中期「児の舞」が起源とされ、磐梯神社に奉納する巫女舞。一時途絶え、S40年代半ばに復元。神事に続き4人1組で神の依代となる榊・弓・太刀を採物とした三種の舞を奉納する。
	巫女舞		衣装新調費用の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
福島県	カトシカウジシヅヤダイカグラ 門鹿王子神社太々神楽保存会	60	江戸時代後期から継承される出雲流神楽で市内で最も古い。演目数は33座で市内で2番目に多い。王子神社の春季(4月)・秋季(11月)例大祭で奉納。
	門鹿王子神社太々神楽		道具衣装購入費の一部として
栃木県	テンカイカンパカミシマイソノカイ 天下一関白神獅子舞保存会	60	関白地区に伝わる1人立ち3匹獅子舞。7庭の演目のうち、「弓くぐり」「柴隠し」「神子舞」他の5庭を、毎年8月第1土曜日に関白山神社・自治会公民館で奉納。特に「神子舞」は関白獅子舞の由来にまつわる演目。
	天下一関白神獅子舞		衣装購入費の一部として
群馬県	ヤキハラスジシヅヤダイカグラマイ 八木原諏訪神社太々神楽舞子会	40	T11年近郊の新井八幡宮から伝わった神楽。21演目・36座の舞と8曲の囃子全てを絶えず継承しているのは希少。会員32人中30～50代が4割近くを占めている。毎年4月12日の八木原諏訪神社春祭に奉納。
	八木原諏訪神社の太々神楽		蛇頭面の補修修理費の一部として
埼玉県	カサナカハラカバクミソノカイ 金鑽神楽岡部組保存会	55	江戸末期創始とされ金鑽神社に奉納する里神楽を継承。当初の13神楽組は当団体を含め2組のみ現存。深谷市内5か所の神社の春秋の祭礼に、通算6回奉納。
	里神楽		衣装・道具整備費の一部として
千葉県	カモシヅヤシヅヤケイウホソノカイ 賀茂神社民俗芸能保存会	45	江戸末期上演の記録が残る三番叟。賀茂神社八朔祭に翁舞→三番叟と千歳の掛合→三番叟の順で囃子方も含め全て少年が行うのが独特。一緒に少女8人による花踊も奉納。中近世以来の文化を色濃く残す。
	加茂の三番叟と花踊		衣装・道具購入費の一部として
東京都	オウメシラカシヅヤシヅヤイキョウジ 青梅市虎柏神社祭礼行事保存会	55	虎柏神社は、延喜式内社と呼ばれ1000年以上続く神社。祭礼は8月26日から3日間、「お殿入り祭」、「椀飯の式」、「お炊き上げ」等が行われる。「お殿入り祭」は深夜に消灯して厳かに行われ、他に例の無い行事。
	青梅市虎柏神社の祭礼		祭礼用具の購入費の一部として
新潟県	アカツカダイカグラソノカイ 赤塚太々神楽保存会	40	明治初期に伝わるとされる出雲流神楽。太夫舞7、稚児舞5の12舞を継承。平成に入り休止した稚児舞もH22年、23年にかけて復活。周辺地域の神社8か所にも神官と共に出向いて奉納。
	赤塚太々神楽		各種烏帽子購入費の一部として
福井県	タイク(タビシヅヤ)オサムケイウホソ 田井野区(多由比神社伝統芸能保存会)	40	江戸前期創始とされる多由比神社の春秋祭に行う神事。6集落が輪番で当屋を務める。神職の祭式の後、太鼓・笛の演奏に合わせて王の舞・獅子舞・田楽踊等の芸能を奉納。神役の世襲等中世的な色彩が濃い。
	多由比神社の例祭神事		道具購入費の一部として
長野県	ハバマチライコウネブツコウ 野辺町来迎念仏講	30	嘉暦年間(1326～28)に、呑海上人が相模の藤沢から伝えたと言われる念仏踊り。仏教と獅子舞が融合したもので、町の全戸を対象に仏の供養や安産祈願等幅広く祈願して行われる。盆行事の一環として精霊祭を催す。
	野辺の来迎念仏		和讃用鉦等一式購入費の一部として
岐阜県	アスマザカキソノカイ 東座歌舞伎保存会	40	江戸～明治期に盛んに行われた地元住人による地歌舞伎。S30年代に衰退したが、S60年代に復活の気運が高まり保存会が発足し歌舞伎小屋を修復。毎年定期公演を行なう。加茂郡に現存する唯一の芝居小屋。
	地歌舞伎		楽器整備費の一部として
静岡県	トウコウジサルマイソノカイ 東光寺猿舞保存会	30	南北朝時代(1336-1392)に舞ったとされる東光寺地区の猿舞。毎年4月の第2土曜日に、東光寺日吉神社の例祭で、夫婦猿の面を付けた児童二人が、7人の楽人の演奏にあわせて3種類の舞を奉納。
	猿舞		道具購入費として
愛知県	フジエシヅヤツカシラバカクソノ 藤江神社八ッ頭舞楽保存会	50	舞楽面に享保7年(1722)の修理記録があり、それ以前から伝承されてきたとされる。雄獅子・雌獅子が1対で踊る1人立ち獅子舞。藤江神社の秋例大祭で奉納。
	だんつく獅子舞		装束購入費の一部として



地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
三重県	タゲチネブツオドリケイショウカイ 田口念佛踊継承会	40	江戸期創始の念佛踊。一時途絶え、戦後復活。毎年8月14日の夜に妙法寺境内で新仏・先祖・戦没者等供養の為、太鼓・鉦に合わせ念佛音頭を唱えつつ白装束・腰蓑・太鼓姿で勇壮に踊る。H29年臯月会より継承。
	田口念佛踊		道具整備費の一部として
滋賀県	クワリハカガサタイオドリホソノカイ 黒川花笠太鼓踊り保存会	20	江戸期から主に雨乞の太鼓踊を継承。鬼面の棒振りと花笠・締太鼓の太鼓打ちが中心で踊り、貝吹き・歌出し・側踊りが取囲む。4月第3日曜に大宮神社で4地区が太鼓・棒をぶつけ合う「出会い」を行う。
	黒川花笠太鼓踊り		踊り警護役衣装購入費の一部として
和歌山県	ヒコカリチヨウコテンゲイノホソノカイ 広川町古典芸能保存会	20	江戸時代、当地区の人が東海道をみた獅子舞に心惹かれ、天神社の神事舞に取り入れたとされる3人立ち獅子舞。10月1日の広八幡神社の秋祭りで奉納。「打込舞」、「中舞」、「高舞」の三部構成からなる。
	乙田の獅子舞		太鼓整備費の一部として
鳥取県	アキトデントウブシカヲホソノカイ 秋里伝統文化を保存する会	35	麒麟獅子舞は、1650年頃、鳥取東照宮の祭礼芸能として始まり、因幡地方に広がったとされる2人立ち獅子舞で、毎年4月の例祭に奉納。3年に1度の大祭では、大名行列・神輿・幟武者等の神幸行列が町内を巡行する。
	木三嶋神社の獅子舞・大名行列		道具整備費の一部として
島根県	ミカズラカガヲホソノカイ 三葛神楽保持者会	60	西石見神楽の祖形とされ、明治中頃に三葛地区の住民が匹見紙祖八幡宮の宮司より受け継いだもの。120年以上経過した現在も形を変えずに受け継ぐ。石見神楽の中では数少ない六調子で足の動きに特徴がある。
	石見神楽・六調子		道具整備費の一部として
山口県	トヨハラチカコシワドリホソノカイ 豊原地区腰輪踊り保存会	55	三隅八幡宮秋祭に4地区輪番で2年に一度、腰輪踊りを奉納。当地区の踊りは元禄年間(1688～1703)創始とされ、単独で奉納できる唯一の自治会。併せ実施する小祭では祝事の家や自治会長宅を廻る。
	腰輪踊り(獅子の洞入)		衣装・道具購入費の一部として
徳島県	ノブマサカネドリホソノカイ 信正鉦踊り保存会	30	江戸中期起源とされ雨乞い・疫病防除・五穀豊穡を祈願する念仏踊。一時中断、赤痢流行時に復活。8月16日に地区内2カ所で4庭を奉納。華やかな花笠姿で鉦・太鼓に合わせ踊る。町内の他の3地区も継承。
	山城の鉦踊		用具新調・小道具材料費の一部として
香川県	ヒツイモモテマツリホソノカイ 櫃石ももて祭保存会	60	櫃石島で1年の豊漁を占う弓神事。旧暦1月11日に11人の袴姿の射手が大的・小的の順に奉射する。終了後は列を作った射手が光明真言を唱え集落を回り厄払いする。延宝5年(1677)記銘の重藤の弓が残る。
	櫃石ももて祭		袴・塗弓購入費の一部として
愛媛県	テンジノハナドリホソノカイ 天神花踊り保存会	20	天正13年(1585)頃より踊り継がれている花踊り。真剣と鎌を使用した神事後、太刀踊り8演目、鎌踊り6演目がある。毎年9月1日天満神社境内で奉納。
	天神花踊り		大太鼓修理費の一部として
高知県	サキハマハマシマノウコンキョウジノホソノカイ 佐喜浜八幡宮古式行事保存会	58	秋季大祭の一連行事は、宵宮、神幸、獅子舞、にわかを骨格としており、毎年10月の祝日である体育の日の前日にあたる土日に行われている。獅子舞やにわかでは、地元小中学校とも連携して取り組んでいる。
	佐喜浜八幡宮・宵宮		道具購入費の一部として
福岡県	マエダノホソノドリホソノカイ 前田の盆踊保存会	55	伝承では室町末期に大内氏に攻められた花尾城兵の戦死者供養の為始められた。大傘の下に位置した地方・地謡を中心に輪踊りする。手振りが技巧的で繊細。地蔵盆に観音堂で披露。
	前田の盆踊		道具・子供用衣装購入費の一部として
佐賀県	シモンガエチカクノシマタイコブリユウホソノカイ 下新ヶ江地区沖ノ島太鼓浮立保存会	40	旧暦6月19日に奉納太鼓を載せた船が五穀豊穡を祈り島を目指す沖ノ島参りを継承。300年の歴史があり一時中断、H21年保存会結成し復活。深夜に出帆し太鼓・鼓・笛を演奏し日の出に合わせて上陸し、浮立を奉納。
	沖ノ島太鼓浮立		道具整備費の一部として

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人 伝承行事・芸能・技術の名称		助成目的
長崎県	ショウヤマハチノガセインダシ 正山八ノ川青年団	60	1月4日に天満神宮の氏子の家々を回り厄除け払いの獅子舞を明治初期から代々継承。五島神楽に含まれる獅子舞が起源とされ、獅子と天狗が組み、太鼓と笛の囃子に合わせて舞う。
	獅子舞		衣装・道具整備費用の一部として
熊本県	セイゲンジカゴラホソノカイ 清源寺神楽保存会	60	M29年近隣から習い受け奉納。一時衰退もS48年保存会結成し復活。初剣・幣・二剣・四剣・榊・歌・神楽・弓・矢等で構成され、太鼓・笛の音に合わせて演じ台詞のない無言劇が特徴。年13回の奉納や町行事で披露。
	清源時神楽		子供用衣装・神楽太鼓新調費の一部として
大分県	ヤマカカゴラホソノカイ 山香神楽保存会	60	発祥・展開は15～16世紀に遡ると伝わる、岩戸神楽の国東系に分類される。舞中で唄われる言い建て(詞章)が多いのが特徴。山香町野原の八旗八幡社を中心に活動し、年20回以上の奉納やイベントで上演。
	山香神楽		道具購入費の一部として
宮崎県	ヒキシソジヤカゴラカイ 比木神社神楽会	60	旧高鍋藩領の各神社に奉納される高鍋神楽の1つ。六社が神楽奉納を輪番または連合で12月始めに行なっている。比木神楽はそれとは別に独自の夜神楽を奉納する。
	比企神楽		道具購入費の一部として
鹿児島県	タケダシソジヤカラホソノカイ 竹田神社からくり保存会	60	戦国末期頃、日新寺(現竹田神社)の寺前の灌漑水路を利用した出し物として始まる。回り舞台型で木製の水車を動力源に、舞台上で人形が水平に回る。人形自体動きはないが、人形の表情・構成で想像力を引き出す。
	加世田の水車からくり		材料費・工具等購入費の一部として
沖縄県	マツハラジチカイ(シシマホソノカイ) 松原自治会(獅子舞保存会)	70	航海安全・豊漁を祈願し、五穀豊穡等に感謝、子孫繁栄を祈願して行われる。海神祭の座の清め払いに獅子舞が登場し、奉納芸能として演じられている。自治会民総出によるクイチャーと多様な民俗芸能が融合した祭り。
	久松海神祭(獅子舞、クイチャー)		道具製作費の一部として

2. 民俗技術の部（伝統的製作技術・衣食住に関わる生活技術・伝統工芸を含む） 2件 75万円

地域	フリガナ	助成額 (万円)	活動の概要
	申込団体または個人		助成目的
	民俗文化財の名称		
秋田県	カツノソノゾメ・アカネノメケンキュウカイ 鹿角紫根染・茜染研究会	40	奈良期から続く草木染技術を継承。明治期に衰退、大正初期に復興したがH3年伝承者が死亡。H25年遺族の協力を得て研究会を発足し活動再開。H26年から3年連続で文化庁伝統文化親子教室を開催。
	紫根染・茜染の染色技術		草木染の道具・原料費の一部として
福岡県	ハカタハサミセイサキジユツホリノカイ 博多鋏製作技術保存会	35	鎌倉期に南宋からの帰化人が伝えたとされる鋏製作技術。博多の刀鍛冶が改良を加え継承。一人の職人が全9工程を勘と経験で仕上げる。技術継承者が1人のみであり、複数の研修者を養成中。
	博多鋏の製作技術		道具修理・材料購入費の一部として



【ご参考】国指定・国選択重要無形民俗文化財に定められた助成先

平成30年1月に文部科学省(文化庁)が新たに重要無形民俗文化財に指定した6件のうち下記の1件1団体が、当財団がこれまでに行なった助成先から該当いたしました。

保存継承に関わってこられた地元関係者の皆様のお喜びは勿論ですが、当財団にとりましても、今年も引き続き助成先から選ばれた事はたいへん嬉しいニュースです。

区分	決定年月	文化財名称	保存団体	地域	助成年度
国指定	2018年1月	まつまえかぐら 松前神楽	すつつ 寿都松前神楽保存会	北海道 寿都郡 寿都町	2007年 2008年 2016年

以上

## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成30年3月現在) ・音楽分野 491人 8億8,880万円 ・伝統文化分野 1,180件 6億1,097万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社